

第 49 回東京実技セミナー 開催報告



開催日:2017年6月10・11日(土日)

時間:10日:13:00~18:00/11日:9:00~14:00

開催場所:ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催:NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

共催:ラックヘルスケア株式会社

後援:株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

KTSMでは、口から食べることに困難を有した方々の食べる幸せを支援するための食事介助技術の実践的教育を図ってきました。しかしながら、口から食べ続けられる社会を実現するためには、さらなる行動変革を来すことのできる人材輩出が必要です。今回、食事介助技術のブラッシュアップ、困難場面への対処方法、自己課題への解決、組織マネジメントなどリーダーシップを発揮できる人材育成を目的としたアドバンスコースを開催します。

KTSM 実技認定者(講師・アドバイザー)一覧

<敬称略>

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
小山珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者

セミナーサポート一覧

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
福岡 碧	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®	事務員
金 志純	社会福祉法風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
高橋 瑞保	山形県立中央病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者

アンケート集計結果（参加者 14 名、アンケート回答者 13 名）

職種

13

回答	票数	%	
医師	0	0%	
看護師	6	46%	
歯科医師	1	8%	
歯科衛生士	0	0%	
栄養士・管理栄養士	4	31%	
言語聴覚士	1	8%	
作業療法士	0	0%	
介護職	0	0%	
薬剤師	0	0%	
その他	1	8%	

勤務施設

13

回答	票数	%	
病院	9	69%	
施設	2	15%	
診療所	1	8%	
在宅訪問	1	8%	
その他	0	0%	

経験年数

13

回答	票数	%	
1～4年	0	0%	
5～9年	2	15%	
10～19年	6	46%	
20年以上	5	38%	

参加前と参加後で考え方がどのように変化しましたか？

- * 自己紹介の PDF を拝見した時点で問題(課題)は消化しました。その後に、セミナーに参加して、問題解決の方法が確信に変わり、いまとなっては小さなことに真剣に悩んでいた自分が笑えます。視点をほんのちょっとずらして見るだけで変わるもんですね。
- * 自分のスキルアップを図ることが組織全体を変えていくことに繋がる道筋が見えたように思いました。活動を数値化する必要性を強く感じました。
- * セミナーに参加する前は、具体的に今後どのように病院の中で活動していくか、はっきりしていませんでした。しかし、セミナーに参加し、患者様が口から食べ幸せになるという、ビックワードを具体化することで今後進むべきことがみえてきたように思います。
- * 今まで、こんなにいいのになんでわかってくれないんだと一人よがりだった。
- * 具体的に行きたい口から食べる支援をわかるように言語にすること。協力者を作ること”
- * 参加前は、技術や知識を学べば、組織を動かすことができると考えていたところがあった。しかし、私に欠けていたのは、責任と覚悟をもって、リスクもすべて含めて進んでいくという気持ちであったことに気づかされた。
- * 参加前は全てにおいて考え方や発言が抽象的で、踏み込めていなかった。参加後は、しっかりと目的を持ってそこに邁進するという1本の筋が大切であることに気づいた。「口から食べる幸せを守る」という目的が明瞭になった。
- * 患者さんに対しても、自分自身の目標に対しても一本踏み込む勇気が持てました。
KTSM の認定、到底自分が届くものではない、さすがに目指せない、と一歩引いてしまっていたところがありましたが、全国から来た参加者が必死になって目指しているのを見て、話をして、遠い未来になるかもしれないけれど、目指そう、と思えるようになりました。今までは、結局自分の事しか考えられてなかったのだと思います。自分のスキルアップはゴールではなくプロセス。全ては、食べたいという思いに応える社会を作るために。”
- * 脳神経の知識が不足していて、参加前はただ単に暗記するしかないかと思っていましたが、摂食嚥下障害の症例に結び付けて一つ一つ確認しながら覚えていこうと思いました。
- * 技術の習得の大切さと何かを変えようとしてもあくまでも数字を結果に出して納得いただくことや周囲の有力な人を巻き込む必要があることが分かった
- * 初めて KTSM セミナーに参加する前は、当院には VE、VF が無い、専門医や ST 不在で正確な評価ができないと思っていた。しかし、1 回目のセミナーでは、口や喉だけではなく KTBC を用い包括的に評価する必要があることを学んだ。その後、当院でも KTBC を導入し活用していきたいと思ったが、その一方で、私の口から食べることの知識と技術が不足していることに気付いた。
- * 今回のセミナーでは、知識と技術の他に、外的言語力が無いことに気づいた。そのため、論理的にうまく説明することができず、スタッフをまきこむ力も不足していると感じた。
参加後は、外的言語力を習慣化し向上させることで、モヤモヤした気持ちを形にし、より目的を明確にすることで納得したスタッフを仲間にできれば心強いと考えることができ、気持ちが楽になった。”
今自分が何をすべきか改めて考えさせられました。実技だけでなく脳神経系の勉強もしていく必要があるという思いが強くなりました。
- * 自分の目標や考えていることを言語化(話す、書く)することが必要である。自らの目指すことを達成するために、5 W1H で具体的に目標をたてること組織に認めさせるためには、数字を意識する必要がある”
- * 自分自身のスキル不足が、一番の理由なのですが、職場でもあまり積極的に摂食嚥下について意欲的に取り込んでいる姿勢を見せていなかったように思えます(必要時には、自分自身が知りえる情報提供はしていました)実際、訪問の現場では、摂食嚥下の支援が重視されているにもかかわらず、十分な支援ができていない状況が多々あります。

今までは、わかっているけど、なかなか積極的に活動していく事が出来ませんでした。職場内では少しずつ、理解されつつあるんですが、まだ、自分自身の未熟さに自信が持てずにいました。セミナーで自分自身の足りないところも確認することができました。又、現状、出来ているところもあり、それを今後どのように生かしていけばいいのか、その糸口を見つかることができました。在宅の現場で、摂食嚥下の支援の重要性を広め、関わる他職種の方々に知識・技術の向上を目指し、ともに学んでいける環境づくりができる様、今後も、地域に根付く活動を積極的に行っていきたいと思えます。

セミナーで学んだことをどのように現場で活かしていきますか？

* 1)組織の問題を一気にかえることは難しいですが、個人の行動はすぐ変えられますね。PT が食事支援に関われる余地はいくらでもあるので、共通の認識と知識、技術を持って取り組める方向性を目指していきたいと思えます。2)個人、職場だけでなく、介護する家族にKTSMの技術をかみ砕いて(一般化して)伝えることで、口から「食べる」「食べてもらえる」ことの大切さが地域にも浸透してくると思う。そういう技術、意識を広めないといけません。KTBC についてもっと施設内で学びを深めていくための勉強会など活動を行いたいと思えます。またスキルの底上げとそれを数値化して結果を評価したいと思えます。

* KT バランスチャートを活用し、早期の経口摂取を促していく。経口摂取ができるようになったという成功体験を増やし、どのような取り組みを行い、どれだけ経口摂取できたかということを数値化していく。同じ目標(患者様が口から食べる幸せになることができる)をもつ仲間を増やしていく。自分の行っていることをきちんと言語化し、他のスタッフに伝えられるようにする。”

* 月曜日出勤すると食事を食べさせるなんて危ない。と机にメモがありました。なぜ、危ないのか？なにが危ないのか聞いて、食事を食べることを説明します。このように思えること一番セミナーで教わった大きなことです。”

* 医師やスタッフを動かすために、言葉で理論的に説明できるよう、言語化する訓練を積み重ねていきます。また、私が評価されるのは、摂食機能療法の件数なので、小山先生からお聞きした実践内容からヒントをいただいたので、目標値を再度見直し、戦略を立て実践していきます。日常の診療においては医院のスタッフとともに「目的」を共有し、常に念頭に置いて患者さんと接していきたい。地域の仲間とは今一度「目的」を確認して共有し、そこに向けて活動できるようにしていきます。

* 今回のセミナーで1番学んだのは、言語化するという事。具体的に期限を設けた目標を掲げ、達成していくような働き方をしていこうと思えます。また、自分が今持っている知識の言語化を目指して、現場にアウトプットしていきます。”今の現場(職場)は今のところ順調に進んでいるので、現場の外に出て積極的にアプローチしていこうと思えます。摂食嚥下に困っている人、組織は表に出ないことが多いのではないかと感じており、一人でも多くの人の悩みを拾い上げたいと思えます。そして、私が解決できることは実践し、他の人の力が必要な時は繋げることで、口から食べる幸せの輪を広げたいと思えます。まず、病院内の摂食機能療法の件数を変えるように看護部長に働きかけることでKTSMの会の存在とKTBCの必要性を訴えていく

* 今回のセミナー参加後、他スタッフに学んだことや感想を伝えたと、院内での取り組みについてご意見を頂いた。今後は、KTBCを使った介入を行い、評価する。また、院内においてKTBCを使用した流れをフローチャート化し、標準化して使用できるようにしたい。”

* 勉強会などで伝えていけたらと思っています。ポジショニングとスプーンの操作は現場で自ら実践します。スタッフにも伝達、演習を計画します

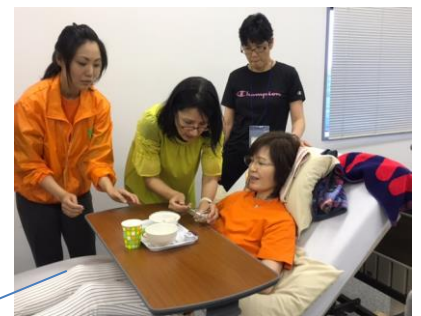
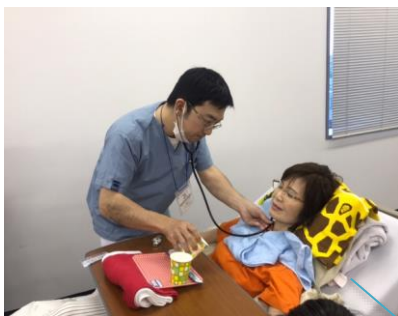
* 職場で共に働くスタッフの理解を得ることが、まずは重要であると考え、自分の意思を上司にきちんと伝え、何をしたいのかを、きちんと言葉で伝え、形に残していくようにしていきたいと思えます。結果をきちんと出すことで、信頼も得ることができ、自分の行動も理解してもらえるのではないかと思います。職場内で協力者が増え、活躍の場がもっと広がっていくと思えました。

* 訪問の現場で、主治医や施設スタッフなどに何か違うと感じた時には、きちんと理由付けで説明していけるスキルを積極的に活かしていきたいと思えます。

セミナーの様子



1人1人自己紹介を行いました



個々の困難症例にあった実技指導を行いました



2日目は講義からです！

グループワークをしながらそれぞれの課題を話し合いました



最後はグループで！皆様とても仲良くなられていました♪



2日間のセミナーは初めての試みでしたが
皆様とても真剣に、時に楽しく受講されておりました。
ご参加いただいた皆様、ありがとうございました

